

中央大学中長期事業計画 概要

Chuo Vision 2025



はじめに

中央大学は、英吉利法律学校として創立された1885(明治18)年当時から「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもと、多様な学問研究と幅広い実践的な教育を通じて社会に多大な貢献をしてきました。

2015年度に創立130周年を迎えた本学は、建学の精神に基づいて本学のMission(使命)及びVision(将来構想)を明確にし、2016年度を起点として、2025年度までの10年間に重点的に取り組むべき課題として、教育組織の新設・再編、キャンパス整備、グローバル戦略、スポーツ振興などを中核とした基本方針を「中長期事業計画 Chuo Vision 2025」として取り纏めました。

この基本方針に沿って、法人(経営)と教学が一体となって具体的なアクションプランを策定します。

中央大学の更なる飛躍に向けて、教職員はじめ、ご父母、同窓生で組織する学員会及び社会、地域の協力のもと、具体的な改革に取り組んでまいります。

「世界に存在感のある大学へ」

中長期事業計画
Chuo Vision 2025

Mission

「グローバルな視野と実地応用の力を備え、人類の福祉に貢献する人材の育成」

Vision

1. 教育
「社会の期待に応え、人類の福祉に貢献する力を備えた人材を育成するための総合的な実学教育の拠点の形成」
2. 研究
「地球規模での複雑な諸問題の解決に寄与する専門的かつ学際的な研究の推進」
3. 社会貢献
「特色ある教育・研究に立脚した社会連携とヒューマンネットワーク拠点の形成」
4. キャンパス
「人類の未来を拓き、常に新たな社会的価値を創出する総合キャンパスの構築」
5. 経営
「本学の継続的な事業活動を支える揺ぎない経営基盤の確立」

建学の精神 「實地應用ノ素ヲ養フ」

1. 教育組織の改編・創設

現代社会が直面している新たな課題に応えるため、大学の教育研究体制を再編し、より充実した総合大学を目指すものとします。

- (1) ICT系、メディア表現系、多言語多文化系などの複数の学部の新設を目指します。これらは、比較的親和性の高い総合政策学部を発展改組することによって実現するものとします。新学部を設置する場合の基本的な方向性としては、学部単位の教員組織を学術院という大きな単位に改編した上で、教育組織として新たな学部を編成します。
- (2) 高齢化や福祉など地域社会が抱える課題を解決するための政策形成やマネジメント、生涯スポーツを通じた健康作り、スポーツ振興等に関する教育研究を行う新学部の創設を目指します。

新学部については構想検討委員会(仮称)を設置し、新学部のより詳細な内容について、設置認可の手続を想定しつつ、全学的立場から一層の検討を進めます。

2. キャンパス整備

多摩キャンパスと複数の都心キャンパスを二大キャンパス体制に集約し、新たな姿でそれぞれの充実・発展を目指すものとします。

- (1) 多摩キャンパスについては、自然環境のナチュラルなイメージを更に強化するとともに、グローバル・ラウンジや遠隔授業設備などの施設・設備を一層充実させてグローバル・キャンパスとしての特色を強化します。国際寮を充実させ、外国人留学生が食と住の不安を感じないで留学できる環境を整備します。また、新学部の開設に伴い、必要な教育施設を2019年までに建設します。
- (2) 都心キャンパスについては、複数のキャンパスを最大規模の後楽園キャンパスに集約するとともに、多摩の文系学部の一部を移転して文理双方の教育研究を展開します。移転の第一候補を法学部とし、法科大学院と一体的に配置し、「Law & Law」による教育効果の最大化と効率的な運営を実現します。これらの都心キャンパス整備は2022年の完成を目指します。

キャンパス整備については、全学的なキャンパス整備検討委員会(仮称)を設置し、総合的かつ長期的展望をもって検討にあたることとします。

3. グローバル戦略

グローバル人材であった英吉利法律学校創立者たちによる建学の精神を引き継ぎ、世界に存在感のある Chuo University となるべく、種々の改革を推進します。

- (1) 育成すべき人材像として「グローバル・プロフェッショナル」の概念を掲げ、すべての科目を英語等で教えるグローバルFLP (Faculty-Linkage Program) や国際共同学位、国際共同研究ネットワークの構築など、国際通用性の涵養と専門分野の学修を両立させるカリキュラムの構築を目指します。
- (2) 学生の海外派遣については、グローバル人材育成推進事業 (GGJ) をさらに発展させ、学期制度の見直し、奨学金制度の充実、帰国学生のキャリア支援等を通じて、10年後までに達成する目標値を年間2,200人とします。
- (3) 留学生受け入れについては、英語で修了できるコースの設置、国際寮や奨学金制度の整備充実などにより、留学生支援を広く推進し、10年後までに達成する目標値を1,000人とします。
- (4) 教員構成の国際化については、10年後までに外国人教員が全専任教員の10%、外国の大学で学位を取得した日本人教員を含めて大学全体として25%となることを目指します。

4. スポーツ振興事業

学生スポーツ選手の育成強化により、実績の向上とスポーツに関する伝統の維持・発展の両面を重視し、大学としてスポーツ振興を図るための独自の施策を展開します。

(1) スポーツ振興事業の目標

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックに20人以上の本学代表選手(在学生・卒業生)を送り出します。
- ・5年以内に箱根駅伝5位以内、10年以内に優勝を目指します。

(2) 推進体制

- ・「スポーツ振興・強化推進室」(仮称)を設置し、「オナーズ部門」(オリンピック等の選手確保・育成・強化)と「スポーツ振興部門」を設け、中期的・長期的な強化策を一体的に推進します。

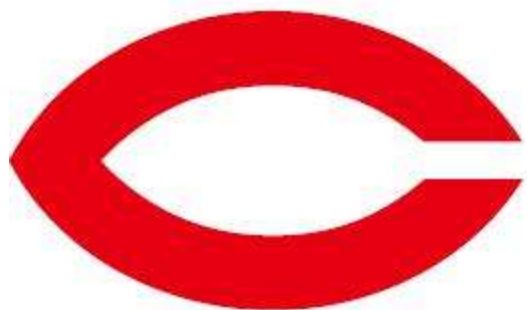
(3) スポーツ振興募金

- ・2020東京オリンピック・パラリンピック強化募金制度を創設します。
- ・強化種目に関する恒常的募金制度を創設します。

用語の解説

FLP (Faculty-Linkage Program)

総合大学ならではの新しい教育システム「ファカルティリンケージ・プログラムー Faculty-Linkage Programー (通称FLP)」は、2003年度からスタートしました。「環境」「ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」「地域・公共マネジメント」の5プログラムを開設し、学部の枠を超えて履修できるシステムで、主体的な学びを提供しています。



中央大学

CHUO UNIVERSITY

— Knowledge into Action —